

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者が地域の中で、自分らしさを継続し生活できるように、理念を基に独自の理念を作り上げている	○	独自の理念を基に地域との関係を深められるような環境を作れるように努めていく
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務所内に理念を掲示し、その理念に基づき、目標を立てて実現出来る様に努めている。又、内部研修を通して実現の為のスキルアップを図っている		個々がケアに対する意識を向上させ、チームケアでの目標と課題を明確にして達成出来る様に努めている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	毎月、家族へのお手紙、町内会への広報紙を通して、理解してもらえよう取り組んでいる。又、運営推進会議には町内会長やご家族の参加も得ている。	○	認知症についての正しい理解と、福祉に対して地域の意識を高め地域の方が気軽に相談出来るような環境作りに努めていく
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内で行われているゴミ拾い、花壇作り等に積極的に参加している。	○	町内との馴染みの関係が作れるように努めていく(町内の行事とホーム内の行事で一緒に出来る様なものがないか検討していく)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の小中学校との交流会やボランティアを招き交流を深めている。毎月、町内の回覧板で広報誌を閲覧して頂き、事業所内で行なわれている行事を紹介している。	○	利用者の重度化に伴い、盆踊りやラジオ体操に参加できなくなっている状況。今後も地域の方と一緒に参加できる活動を取り入れていける様に努めていく
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域とのネットワークの確立の為、広報紙の発行、見学対応等行い、地域住民が気軽に足を運べるように取り組んでいる。又、広報紙を利用して、何か地域のためになる情報を発信している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全体会議等で問題点を周知し、改善について話し合い、ケアに反映し、質の確保、向上に努めている</p>	<p>○</p> <p>今後も評価を生かし、質の向上に取り組んでいく</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議の内容は全スタッフに周知されており、現場のサービスに生かされている</p>	<p>○</p> <p>今後は管理者のみではなく、各階のスタッフも参加出来るような体制を作っていく</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括の方との連絡、情報交換行っており、市の担当者とも情報交換行っている</p>	<p>○</p> <p>市の担当者と連絡を取り合い、最新の情報を全員に周知出来るようにしていきたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度自体は聞いたことはあるが理解出来ていない状況</p>	<p>○</p> <p>今後制度についての勉強会を行い、理解を深めていく</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>サービス適正化委員会を発足し、虐待防止の意義、方法、知識を学んでいる</p>	<p>○</p> <p>会議を通して、知識、理解を深めていく</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書等を説明し、納得を得た上で契約を交わしている。</p>	<p>○</p> <p>契約内容に家族や利用者が不安に思っていることなどを迅速に対応出来る様に努めていく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々のコミュニケーションから、意見、不満、苦情等をくみ取り安全かつ、居心地の良い環境作りに努めている		センター方式のアセスメントに着手しており、より良いケアを提供出来る様に努めている
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	広報紙、写真入りのお手紙、お小遣い帳のコピーやレシートの郵送を行っている。又、面会時や電話連絡の時に状態の報告している。	○	クリスマスには年間の写真をアルバムにして送っている。今後は疎遠になっているご家族に対して近況が分かるようにビデオレター等試してみたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームに来られた時に意見交換を行ったり、利用者の状況を報告したり、気軽に話し合えるように努めている		運営推進会議での意見交換やホーム内の全ての行事に参加をお願いして、意見交換できる環境を作っている
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	改善点は必ずショートカンファレンス行い、意見の集約、決まったことの徹底を行っている		日々の申し送り時に意見交換を行っている。全スタッフが同じ方向性でケアできるように努めている
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急時に備えて連絡網を作っている。又、今年度よりスタッフを増員しており、事前に人数が必要な時は勤務調整や他階からのヘルプを受けている		日々柔軟に助け合いが出来る様に努めていく
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今年度より、人員の増員を行い、職員の定着に繋がっている。離職者が出た場合は利用者に影響が出ないように今出来る対応を話し合い、ケアに生かしている		スタッフ同士馴染みの関係になれるようにお互いの情報交換を行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の個人目標を立てて、目標が達成出来る様に内部研修、外部研修を行っている。又、段階に応じて外部研修に参加している		個々の目標に合わせて外部研修を行っている
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者や講習に参加したスタッフが知り得た情報等を全体会議で周知している。又、グループホーム同士で見学会を行い、情報交換や交流を深めている。		今後もグループホーム同士の見学会を継続していく
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務の見直しや、個別面談により一人一人と話す機会を設けている。今年度より、試験的にリフレッシュ休暇を行い、ストレス軽減に努めている。		休憩時間がしっかりと確保できるように努めていく
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	一人一人が個人目標を立て、具体的に日々のケアを行っている。又、今年度より資格手当を創設しスキルアップの手助けになっている		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	契約に至るまでに、十分に情報収集を行い、個人のニーズに合ったケアが展開出来る様に努めている		利用者個人がその人らしく生活出来る様に努めている
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学を常に受け入れており、当ホームだけではなく各種サービスの説明、その利用者にとって合ったサービスの提供が出来る様に情報提供すると共に、家族の気持ちに立って傾聴している		利用者にも納得して頂ける様に説明に努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者、家族の必要なサービスについて、自事業所のみならず、他事業所の情報提供をおこなっている	○	管理者のみならず、全てのスタッフが家族や利用者へ情報提供出来る様に知識の向上を図っていく
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	情報からアセスメントを行い利用者が安心して生活出来る様に努めている		利用者の意向に添って生活出来る様に環境を整え、行ける様に努めていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	目上の方に対する接し方を心がけ、日々のコミュニケーションから、今どんな事を考えているのかを表情や言動を観察して、利用者の状況に合わせて対応している。又、日々の生活で助け合える場面を作っている		日々の生活に対して、アセスメントを行い、利用者が何を出来て、何を出来ないのか見極められるよう努めていく
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	積極的に行事等への参加の促しを行い、情報交換を行っている。又、どんな小さな情報でも、積極的にケアに取り入れている。	○	家族がもっと気軽に会話出来る関係を作れるように努めていく
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	毎月の手紙の中で、行事の報告や近況報告している。疎遠な家族に対しても根気強く、面会の促しや情報提供を行っている。	○	双方の思いをくみ取り、関係がより良くなるように支援していく
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日々の会話の中から、利用者の好きな物や場所などを聞き取り、希望に添えるよう努めている		生活の張り合いや喜びに繋げていけるように支援して行く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	相性を把握し、座る位置やレクリエーションの内容など配慮している		トラブルに発展しないようにスタッフが間に入り対応している
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された後でも、面会に行き安否の確認を行っている。		他施設入所、入院後も家族に連絡、面会を行っている
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の意向に合わせて、本人のペースで生活出来る様に支援している		利用者の何気ない発言をくみ取りケアに行かせるよう努めている
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を導入し、ご家族、利用者から情報を収集し、アセスメントしている		できることと出来ないことを見極めて行ける様に努めていく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	有する力を失わないように、出来ることを見極めて行っている		できることと出来ないことを見極めて行ける様に努めていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月に1回または変化時にケアプランの見直しを行っている。看護師、医師、ケアスタッフと共に相談しながら、作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3ヶ月ごとのモニタリング、6ヶ月ごとの更新を行い、特変時には、ケアカンファレンスを行い、家族と相談しながら作成している		期限にとらわれずに変化が生じた際には、迅速にカンファレンスを行い、見直ししている
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録、温度版の他に、個別のノートを使用して、日頃の気づき等をケアに行かせる様に記録している		小さなことでも、記録に残し、ケアに行かせる様にしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者、家族の状況や意向の変化に迅速に対応して、馴染みの関係が継続出来るように支援している		要望に応じて、個別のレクリエーション等により、より良い関係を構築している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	随時ボランティアの受け入れ、小中学校との交流、定期的な消防訓練や救命講習を行っている		広報誌等を回覧し近隣の方にも理解して頂ける様な活動を行なっている。交流の機会が増えるように努めていく
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて、他のサービスが利用出来る様に、情報交換を行っている		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、他のサービスが利用出来る様に、情報交換を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回医師の往診、毎週金曜日の看護師の健康チェックになっており、気軽に相談も行っている。又、24時間いつでも連絡取れる体制になっており、安心した生活を送れるようになっている。		馴染みのある医師、看護師の訪問が継続出来るように努めていく
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問医は複数のグループホームの訪問診療をおこなっており、認知症に詳しい医師である。又、利用者の訴えを鵜呑みにするのではなく、職員からの聞き取りも行い、適切な診断をしている。	○	今後は内科だけではなく、他科受診の際にも認知症を理解しながら診療していただける、医師の確保に努めていく
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回の健康チェック、24時間365日のオンコール体制が確保されており、気軽に相談できている	○	馴染みのある看護師と思われるような関係作りに努めていく
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	随時、ムンテラに家族の了解の上参加しており、早期退院に向けて、家族、病院側と積極的に情報交換している		入院によるADLの低下、家族の不安を回復できるように積極的に家族に情報提供しながら退院を勧めていく。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りに対しての勉強会を行い、いつでも看取りの体制が取れるようにしている		定期的な勉強会を行い、技術、知識の習得に努めていく
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	マニュアルの作成、及び実際の展開について勉強会を行っている	○	1つ1つ、スタッフ、医師、看護師と情報を共有して、チームで出来る限りの生活が出来る様に努めていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	事前の面接、情報収集により、その人らしく生活出来る様に支援している		馴染みの環境になるように、スタッフ、家族と情報交換を行い、ダメージの減少に努めていく
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報は法人のルールに則り、管理徹底している(個人名の入った物はシュレッター)。個人の自尊心を傷つけないように声掛け等にも配慮している		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	分かりやすい言葉で、個々にあったペースで説明し、利用者が選択出来る様に努めている		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースを知り、その人らしい生活が営めるように、黒子になり支援している。しかし、勤務状態により職員が少ないときなどは希望に添えない場合がある。		利用者が安心できる生活を送れるように努めている
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者の希望に合わせて、訪問美容で対応している		時々おしゃれの時間を作り、気分転換して頂ける様に努める
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、後片付けに参加していただき、日々の食事を楽しんでいる外食や冬場の鍋等、食事のあり方も常に検討して、楽しめる食事を提供している。		今年度から自家製漬物の提供を始めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の希望に添って、買物の同行や代行を行い、購入の支援を行っている。		買い物を楽しめる仕組みを作り、満足感を得れるように努めていく
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄状況を把握し、薬に頼らない排泄を目指して、看護師と相談しながら、支援している		少しでも失禁の回数が減るように個々のペースを把握し支援して行く
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴前には必ずバイタルチェックを行ない、楽しく健康に入浴出来る様に支援している	○	希望に添った入浴が出来る様に努めていく(夜間の入浴や回数の増加等)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を確保して、夜間眠れるように支援している。長年培ってきた個々の睡眠時状況があるので、その人らしい休息が取れる様に支援している。眠れないときは暖かい飲み物を出す等工夫している		薬に頼らずに自然に安眠出来る様に努めている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者個々が持っている能力を最大限発揮できる場面作りを行っている。映画鑑賞会を行っている。		一人一人が楽しく参加出来る役割を作れるように努めていく
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は事務所で預かっており、買物時の支払い等は自ら行っていただいている		状況に応じて、利用者が混乱、不安がないように努めていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩等希望に添えるように支援している。		外出を希望される方が減少している状況にあるが、今後も個々の希望に合わせて対応していく
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間の行事にて普段行けない場所の設定をしている(小樽散策、大通り公園等)。又、ご家族に参加を促し、家族との交流も図っている。誕生日には本人の希望により、行く場所の設定をしている		利用者個々の希望に可能な限り添えるように努める
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望に応じて、居室での電話等プライバシーに配慮している。又、居室に個人の電話を付ける事ができる。		なかなかホームへ来る事が出来ないご家族へのフォローが出来る様に努めていく
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時はゆっくりと過ごして頂けるようにコーヒー等の飲み物を出して居心地の良い空間を演出している		気兼ねなく、いつでも訪問できるホームになるよう努めていく
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体抑制に対するリスクと倫理観について、研修を行っており拘束をしないケアが徹底されている		サービス適正化委員会を設置し、日々の利用者の権利や人権尊重の意義を学んでいる
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上1階の玄関は鍵が掛かっているが、簡単に中から開けれるようになっており、利用者の自由は尊重されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、見守りにて居場所を把握している。転倒や転落等のリスクを把握し、環境整備や見守り体制により事故を未然に防いでいる		スタッフ同士、コミュニケーションをしっかりと行い、可能な限り事故が無くなるように努める
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物、洗剤、薬等は目の届かない場所に保管している。個人の状況によって刃物等ご自身で管理している方もいる		利用者の状況を把握し、事故の無いように安全管理していく
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故の再発防止の為のカンファレンスを行い、対策を全員で実行している。又、消防訓練や救急講習、緊急対応の方法を学んでいる		ヒヤリハットや事故報告書を分析して、事故防止に努めている
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年2回救急講習を行っており、迅速な対応が出来る様に周知、徹底している	○	常に緊急時の対応が出来る様に今後も勉強会等行っていく
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急時に備えて連絡網を作っている。マニュアルがあり、緊急時の対応が明確になっている		地域の方と共に防災訓練等行えるように働きかけていく
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスク等についてはケアプランを通して説明しており、家族の同意を得ている		常に状況を把握し、新しい情報やリスクについては家族と共有している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや日々の観察、申し送り等で状況の変化に早期対応できている。些細なことでも医師、看護師に相談している	○	常にスタッフ同士で情報の共有化を図っていく
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストを参考に目的や副作用等を把握している。誤薬や服薬忘れが無いように2重のチェックを行っている		看護師と情報を共有化していく
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤に頼らずに排便が出来る様に水分、食べ物(きなこ、寒天、穀物等)、運動等を行い、自然排便を目指している。		日々の排泄状況をチェックし、薬の調整を行なっている
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケア、就寝時のポリドント、歯科の往診により、清潔保持できている		磨き残しがある場合、一部介助にて対応している
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の摂取量をチェックしており、少ない時は無理の無いよう、嗜好に合わせて促している。献立は栄養士が立てており、バランスの良い食事になっている。又、嚥下状況に合わせて、トロミを付ける配慮をしている。		一人一人の嗜好を確認し、日々の食事摂取に取り入れていく
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修にて全スタッフに周知しており、感染マニュアルも周知している。インフルエンザやノロウイルスが活発な時期には厳重な感染対策を行っている		感染症の流行や対策について情報収集し、最新の対応が出来る様に努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	毎晩、まな板等の消毒、月に2回冷蔵庫やマグカップ等の消毒を行っている		衛生管理を徹底しており、今後も新鮮な食材を提供できるように努めていく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	看板を取り付け、わかりやすいようにしている		花壇作りを行い、利用者と楽しめる空間にしている
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節感に配慮した飾り付けを行い、家庭的な空間を演出している。又、行事の写真や植物を置いており、居心地よく生活できるようにしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	色々な場所に座って会話できるようにソファや椅子を設置している		居心地のよい空間になるように努めている
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	自宅で使っていた馴染みの物を使用している。個々の好みに合わせて、居室を飾っている		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	湿度、温度計を各フロアに設置し、常に換気等に努めている		臭い等プライバシーの確保に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、お風呂場、トイレ、階段等手すりが設置されており、安全に生活出来る様に配慮されている。手すりが無い場所もあるので、その際はスタッフが手引きするなどの配慮している。</p>	<p>手すりが無い場所の安全管理に努めていく</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人一人の状況を把握して、そのひとらしい生活出来る様、スタッフは黒子になり、利用者を支援している</p>	<p>日々の生活が自信や生きがいにつながる様に努めていく</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭畑や玄関の花壇等利用者が楽しんで生活出来る様に支援している</p>	<p>ホーム内にプランターを置いて、植物を育てる等ホーム内でも楽しめるように努めている</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない

サービスの実績に関する項目		取り組みの成果
項目		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・レクリエーションを楽しんで利用者が参加できている。(楽しんでリハビリ出来ている)
 - ・個々の能力に合わせて、趣味活動を行っている
 - ・薬に頼らないケアを実践している(自然排便を目指している)
 - ・広い空間を利用して好きな場所でゆったりと過ごせる空間を作っている・リビングに巨大スクリーンがあり、映画鑑賞や歌謡ショーを楽しめる